



創立80周年を迎えて

校長

吉田 隆

大阪府立貝塚高等学校は、今年度で創立80周年を迎えることができました。これも諸先輩方の努力の積み重ねと、PTA・同窓会の皆様はじめ、地元の関係諸機関・地域の皆様からの温かいご支援・ご理解の賜物であると、心より感謝申し上げます。

泉州の一角、この貝塚の地に、「質素堅実」「敬愛互助」の校訓のもと、本校は、昭和16年に貝塚実業学校として創設されました。当時、泉州地域は繊維工業を中心に産業が発達した先進的な地域でした。これらの地域産業の若き担い手の育成は、地元貝塚をはじめ泉州地域の切なる要請であり、それらの期待を一身に受けてのスタートであったことと思います。その後、本校は、戦中戦後の社会情勢や行政の変化、教育制度の改変等を経て、昭和24年に大阪府への移管をもって、「大阪府立貝塚高等学校」となりました。その後、その時代や社会、そして地域の要請に応えながら、本校は様々な改編を重ねてきました。そして、平成16年に総合学科の高等学校に改編され、さらに、その2年後の平成18年には自立支援コースが設置され、現在に至っています。

この間、本校は、地元貝塚や泉州地域をはじめ、全国各地に有為な人材を輩出してまいりました。卒業生の方々は経済・行政・教育・医療・福祉等様々な分野で活躍されており、これら卒業生の活躍こそが、貝高の誇りであ

り、輝かしい歴史と伝統の証しでもあります。

これからの社会は、ますます変化の速度が速くなり、前例が通用しない時代になると言われています。すでに多くの方もご存じかと思いますが、オックスフォード大学などの調査結果によると、AI（人工知能）の発達によって、今後10～20年の間で、現在存在する約半数の職種が無くなる可能性があるそうです。つまり、多くの分野でAIが人の代わりに仕事をするような社会になるということです。しかし、AIがいかに進化しようとも、人が人として、人と関わりながら社会で生きて行くためには、本校が創立以来校訓に掲げて参りました「質素堅実」「敬愛互助」の精神は、いつの時代にも必要とされる大切なものであり、「不易」なものであります。貝塚高校はこれからも変わることなく、表面を飾らず内面を磨き、真に内面の充実した人材の育成、そして、人に対して尊敬と親しみを持って接し、お互いに助け合う精神を持った人材の育成をめざし、教職員一同、一層努力して参る所存です。今後とも、皆様方のご支援・ご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

結びに、本校創立80周年記念事業の準備に当たり、ご尽力・ご協力いただきました皆様方、ご多忙中にもかかわらず玉稿をいただきました皆様方に深くお礼を申しあげ、創立80周年の挨拶とさせていただきます。



貝塚高校の未来を思う

80周年記念事業実行委員会委員長
現同窓会会長
元大阪府立高等学校体育科教諭

喜多 絹一

大阪府立貝塚高等学校創立80周年を迎え、永きにわたりお力添えを下さった多くの方々に真摯に「ありがとうございます」と御礼を申し上げます。

わが母校は1939（昭和14）年第2次世界大戦前の創世年から、戦争敗戦後75年、2020（令和2）年まで政治改革や学校変遷の中で数々の困難に関わりながら立派に80周年を迎えました。本校のためにご尽力くださったすべての地域・教育関係者の方々のお陰で、特に現場の先生や生徒・PTA・同窓会の方々に授けて戴いた和協や継承の力に敬意を込め、同窓会長として心より感謝とお礼を申し上げます。

1949（昭和24）年9月、わが母校は貝塚市立高等学校から大阪府立貝塚高等学校へと認証設置されました。私は昭和24年9月生まれで昨年満70歳になり、古希と80周年の年に同窓会会長・記念事業実行委員長を授かりました。光栄な念を持って皆様方と行事などに努めたいと思っています。

さて皆様にお叱りを受けるかもしれませんが、私は母校に培われてきた歴史・伝統の深さ・重さが、母校の未来にどう発展・成長し、生徒たちがどのような人に成長するのか楽しみに期待しています。昨今は先生方の仕事が多忙と重責を持ち合わせ、歴史と伝統を掲げ生徒を育て成長させることは簡単でなく、時間がかかる大変な仕事だと思っていますが、就職難の時代、定時制・隔週定時制の閉校、農業科・園芸科の閉科などの寂しい時を乗り越えてきた先生方・生徒達の心の強さに母校の未来を期待します。新しい校舎が増え、環境の整備が進む中、先生方や生徒達の明るい姿や顔を垣間見ると、良き伝統の平和な母校が目映り心が和みます。大阪府立貝塚高等学校が未来に羽ばたく為に、より平和な母校が成長躍進するように、未来の母校に革新の光あれと、先生方や生徒達にエールを送らせていただき、多くの皆様方には今まで以上にご支援ご協力を賜りたいと願っています。